

IV 後志農業の特色

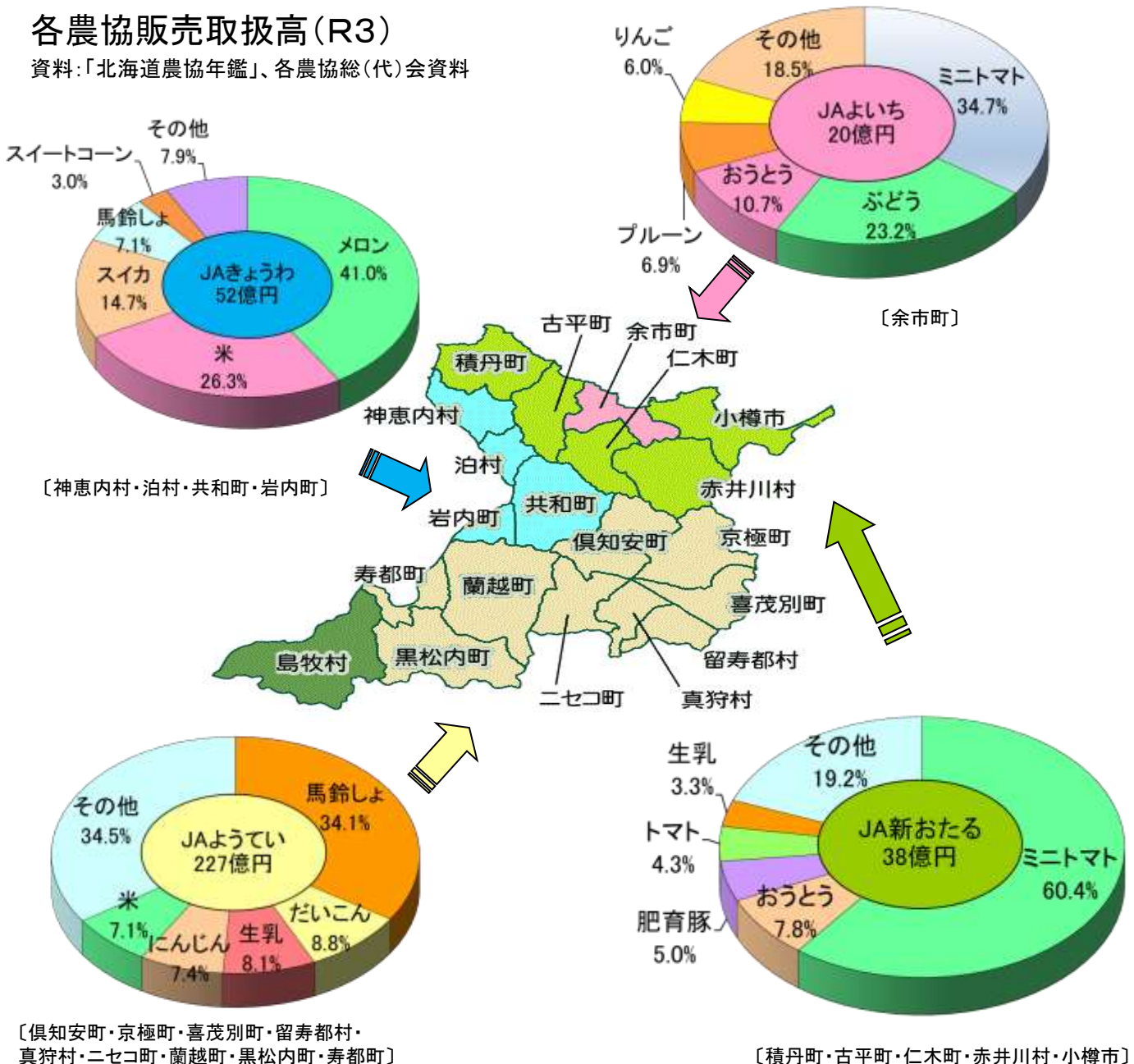
1 地域の特徴

後志管内の農業地域は、大きく4地域に分類することができます。

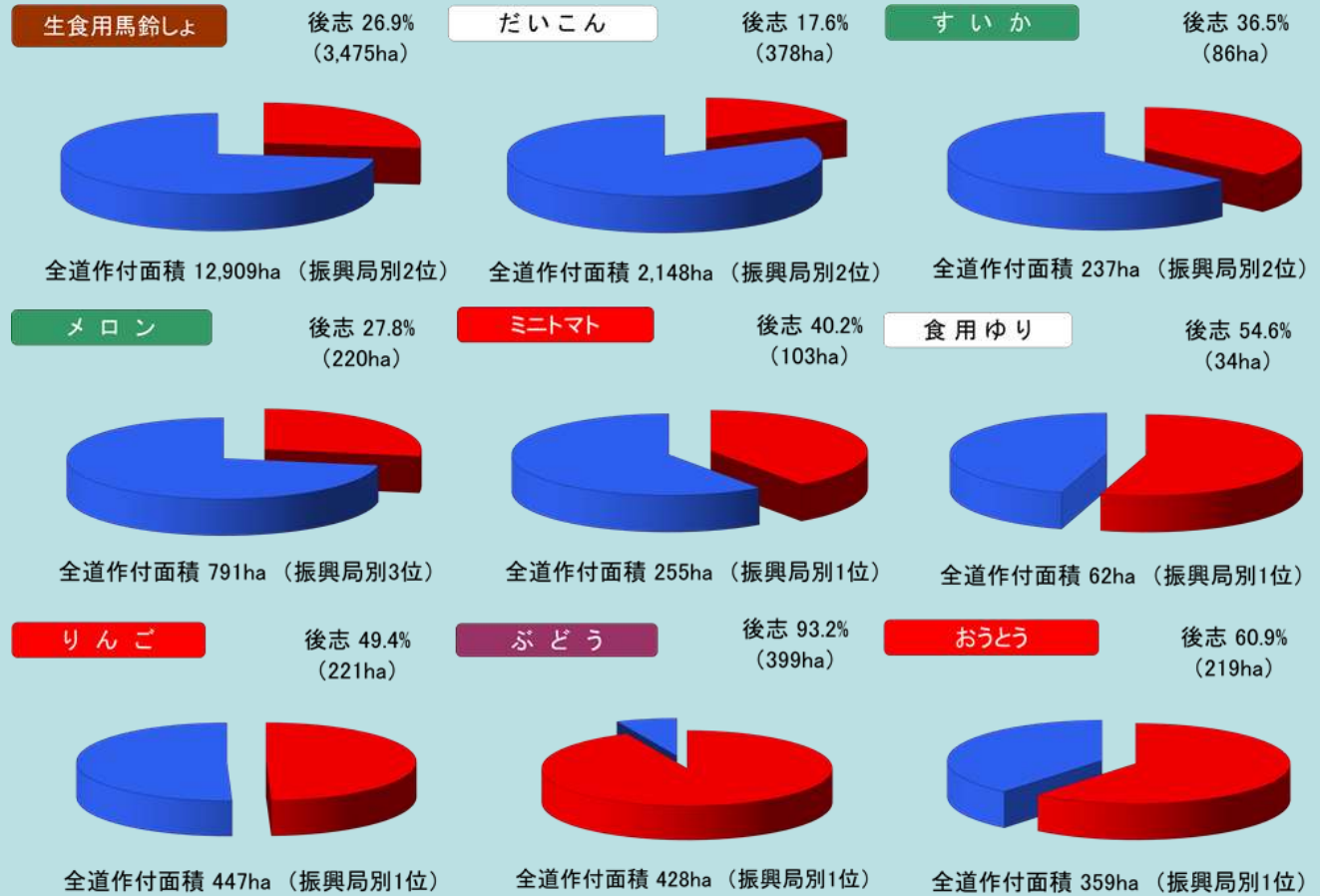
- 北後志地域(積丹町、古平町、余市町、仁木町、赤井川村、小樽市)
温暖で、北海道開拓史時代から果樹栽培を行っている地域で、現在は、さくらんぼや醸造用ぶどうなどの果樹に加え、ミニトマト、カラーピーマン、花きなどの施設園芸も主要品目となっています。
- 岩宇地域(共和町、岩内町、泊村、神恵内村)
比較的降雪が少なく、水稻や、すいか、メロンの栽培が盛んです。馬鈴しょやスイートコーンなどの栽培も行われています。
- 羊蹄山麓地域(ニセコ町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町)
道内でも有数の豪雪地域で、生食用馬鈴しょ、小麦、豆類、てん菜の畑作に加え、だいこんやにんじん、ゆり根、アスパラガスなどは全国屈指の産地です。
- 南後志地域(島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町)
夏期に多霧な黒松内町は酪農や種馬鈴しょなどの生産が盛んで、また、蘭越町は管内有数の水稻生産産地です。その他、小麦など畑作物や露地野菜などの栽培が行われています。

各農協販売取扱高(R3)

資料:「北海道農協年鑑」、各農協総(代)会資料



2 作付面積の全道比率が高い品目



資料：後志総合振興局農務課調べ(R3)
(果樹はR2)

後志管内の主なブランド農産物

<p>仁木町 ミニトマト</p> <p>JA新おたるエリアの仁木町は、道内第1位の作付けを誇るミニトマトの大産地です。品質の高さが評価され、首都圏や関西圏を中心に出荷されています。</p>	<p>余市町 ワイン用ぶどう</p> <p>余市町では、1984年にワイン用ぶどうの本格栽培が始まり徐々に生産が拡大し、現在では、我が国最大の生産を誇る産地へと発展し、品質でも高い評価を受け、道内外のワイナリーに出荷され、多くの優れたワインが産出されています。</p>	<p>らいでん(共和町) すいか・メロン</p> <p>「らいでん」ブランドで有名な、共和町の「すいか」、「メロン」は、本道を代表する産地として、全国に出荷されています。JAきょうわでは、瞬時に、内部品質、糖分を計測できる「光センサー装置」を導入し、空洞果や未熟果等は全てが除外されます。</p>	<p>JAようてい 馬鈴しょ</p> <p>羊蹄山麓は、でん粉質の豊富なおいしい馬鈴しょが生産される道内有数の産地です。JAようていでは、内部傷害(空洞など)の確認できる「光センサー装置」の導入や、種子からの一貫生産体系の構築等により、おいしく、安全なジャガイモが、全国の消費地に出荷しています。</p>	<p>JAようてい 食用ゆり根</p> <p>食用ゆり根の全国総生産量に占める北海道内の生産量は98%で、その中でも、真狩村は約4割(610トン)を生産する我が国最大の産地です。生産物の多くは、関西圏に出荷されている他、一部は台湾などにも輸出されています。</p>	<p>らんこし米</p> <p>蘭越町は、米のおいしさの目安とされるタンパク含有率6.8%以下の米が生産される良質米産地です。また、全国各地の米の匠がその味を争う「米-1グランプリ」の開催をはじめ、地域が一丸となってブランド米づくりに取り組んでいます。</p>
--	--	--	--	--	--